

個人投資家向け会社説明会

Jトラストグループの 概要と経営戦略

Jトラスト株式会社

大阪証券取引所 市場第二部上場 証券コード：8508

日時：2012年2月26日
主催：日興アイ・アール株式会社

- Jトラストグループの事業概要
- Jトラストグループの強み
- 2012年3月期第3四半期業績と通期業績予想
- 今後の成長に向けた経営戦略
- 株主還元

- 武富士のスポンサーとなった経緯と目的
および今後の方針

- ネクスト・ジャパン・ホールディングスの
子会社化の目的と今後の方針

Ｊトラストグループの 事業概要

会社名	Jトラスト株式会社	Jトラスト由来：日本を代表する信頼・信用のある会社
創業	1977年（昭和52年）3月18日	株式会社イッコーとして創業
事業内容	ホールディング業務・債権買取業務に付帯する業務	
子会社数	12社(うち金融：10社 その他：2社)	
連結従業員数	878名 (国内788名 海外90名)	
連結営業収益	172億円	
純資産	1,167億円	
総資産	478億円	
上場市場	大阪証券取引所 市場第二部 (証券コード：8508)	
時価総額	256億円(2012年2月23日現在) 発行済株式数：30,078千株	
単元株式数	100株	

大証 2 部時価総額ランキング

2012年2月23日現在

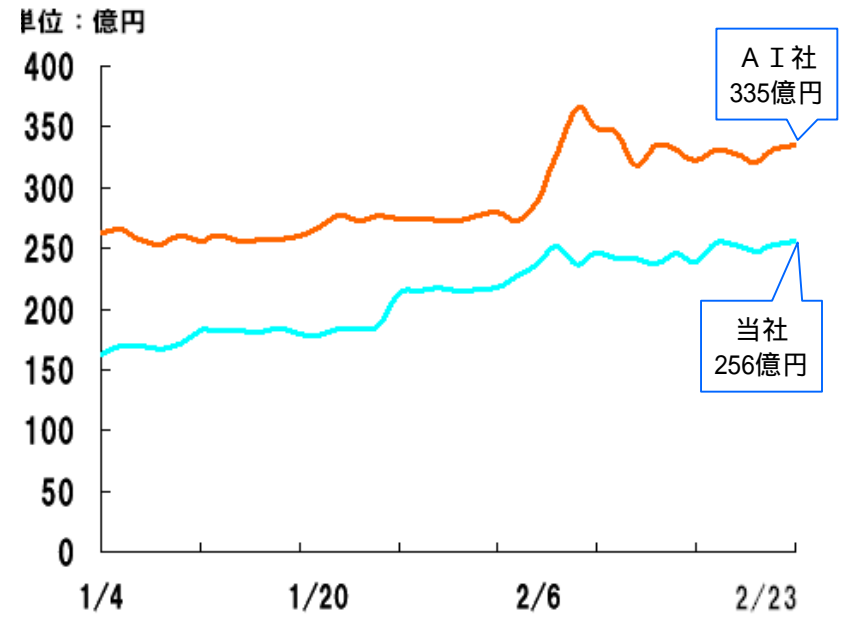
順位	コード	名称	業種	時価総額
1	7279	ハイレックスコーポレーション	輸送用機器	528
2	4966	上村工業(株)	化学	307
3	8287	マックスバリュ西日本(株)	小売業	306
4	4552	日本ケミカルリサーチ(株)	医薬品	281
5	8508	Jトラスト(株)	その他金融業	256

順位	コード	名称	業種	時価総額
6	6299	(株)神鋼環境ソリューション	機械	249
7	9919	(株)関西スーパーマーケット	小売業	216
8	6932	(株)遠藤照明	電気機器	212
9	7965	象印マホービン(株)	電気機器	203
10	9405	朝日放送(株)	通信業	189

当社日足チャート(1年)



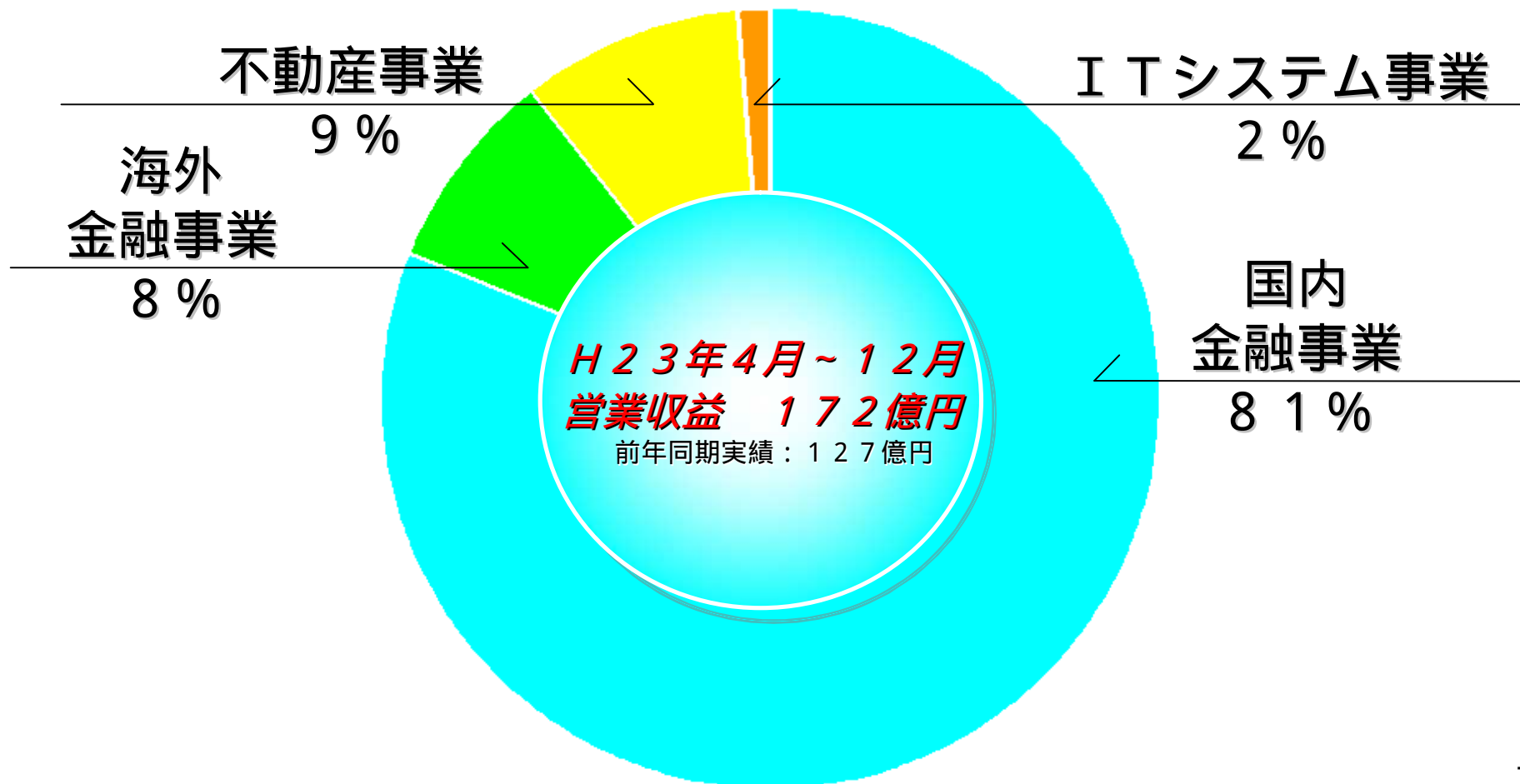
当社とA I社の時価総額比較

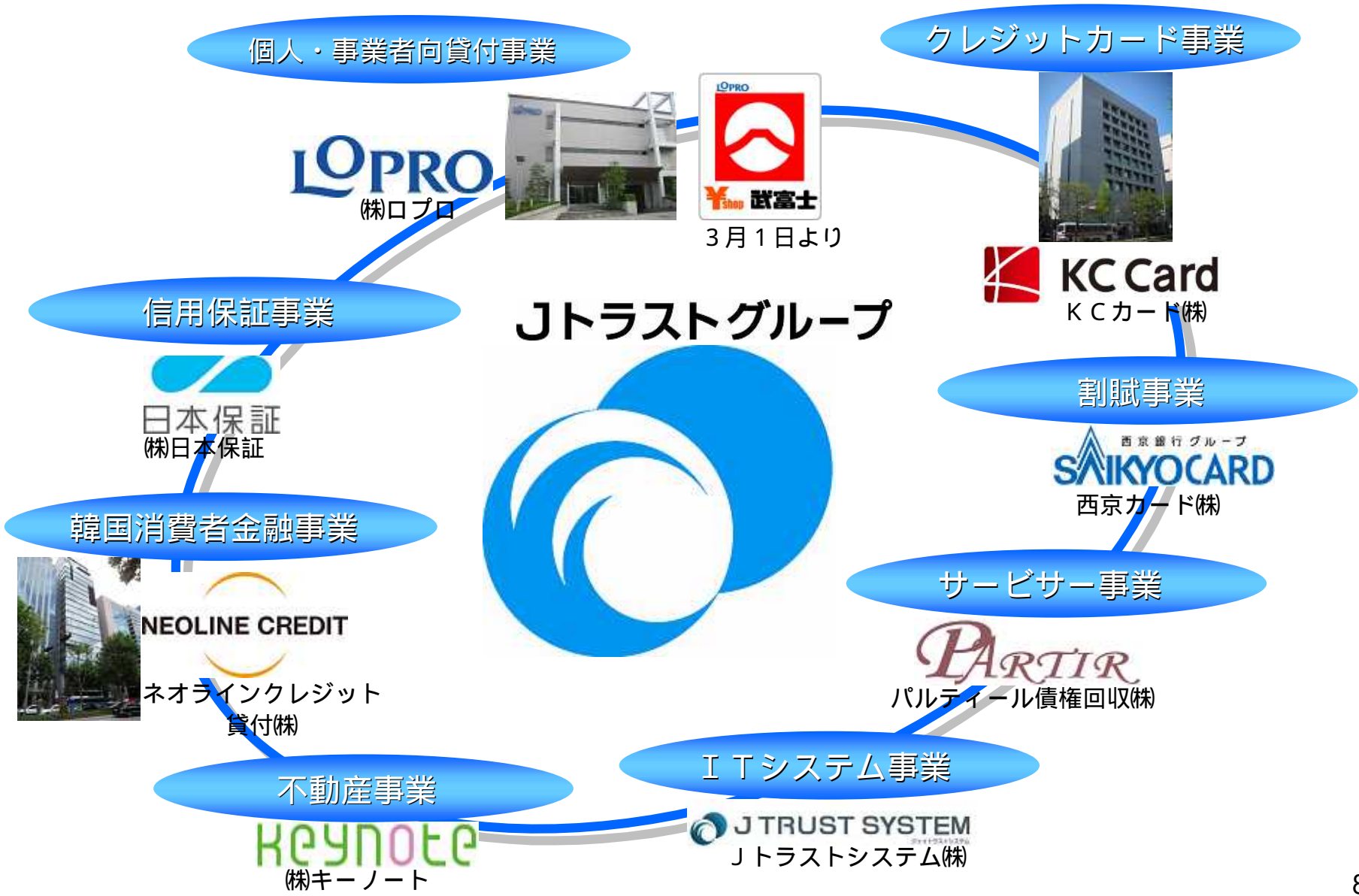


Jトラストグループは、金融を中心とした総合ファイナンスグループ

セグメント別営業収益

2011年12月末現在

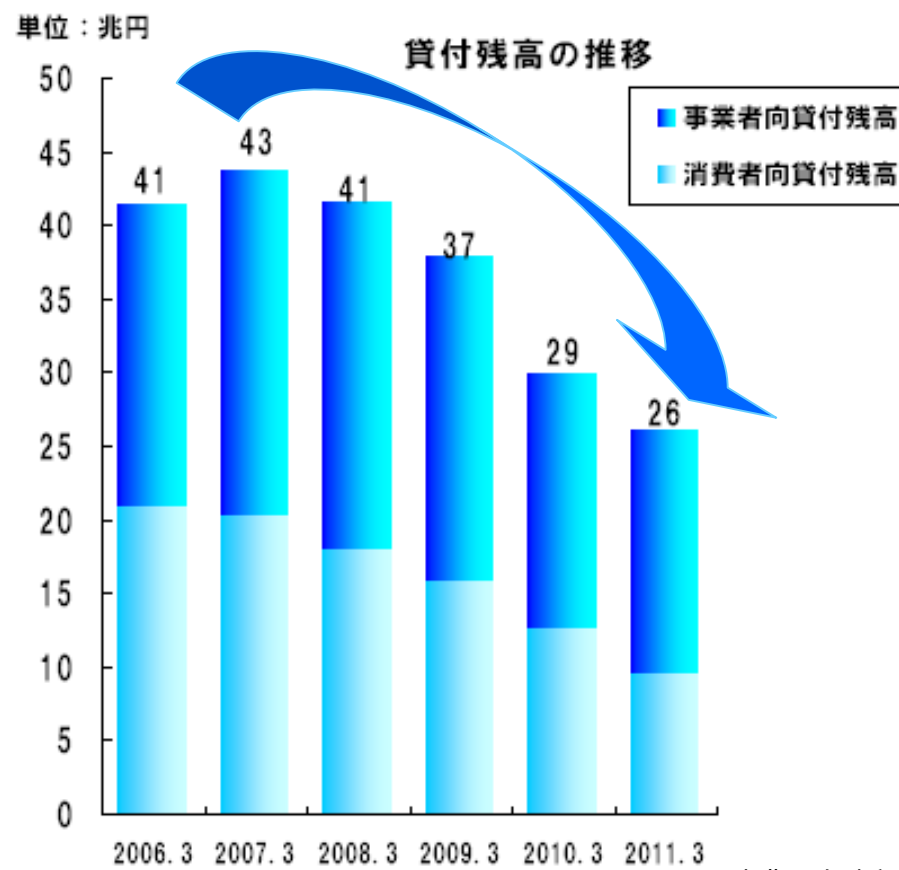
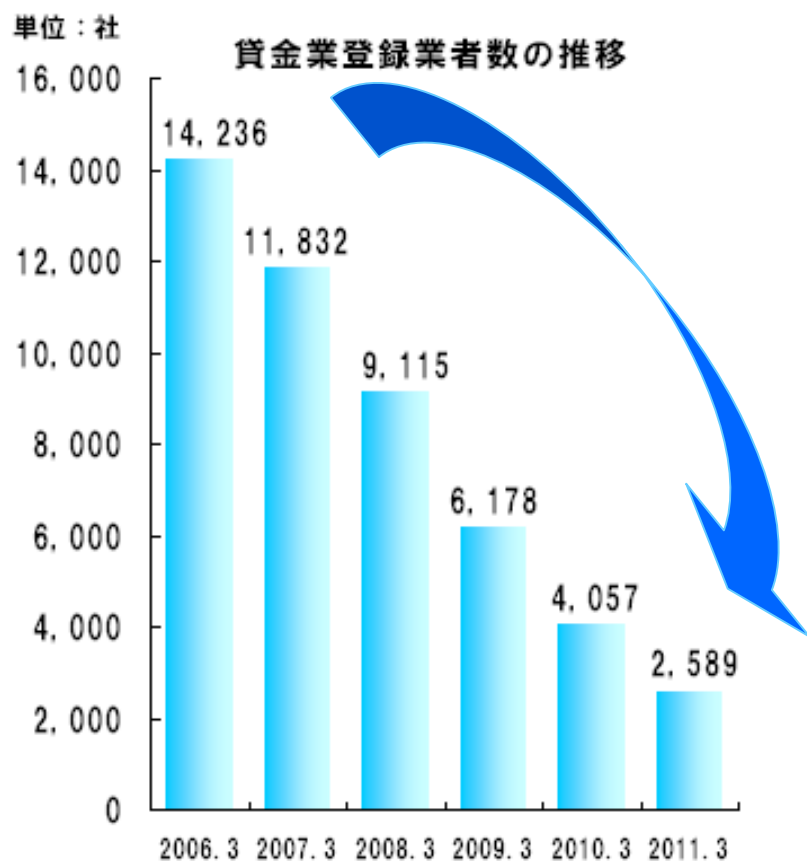




貸金業者数と残高の推移

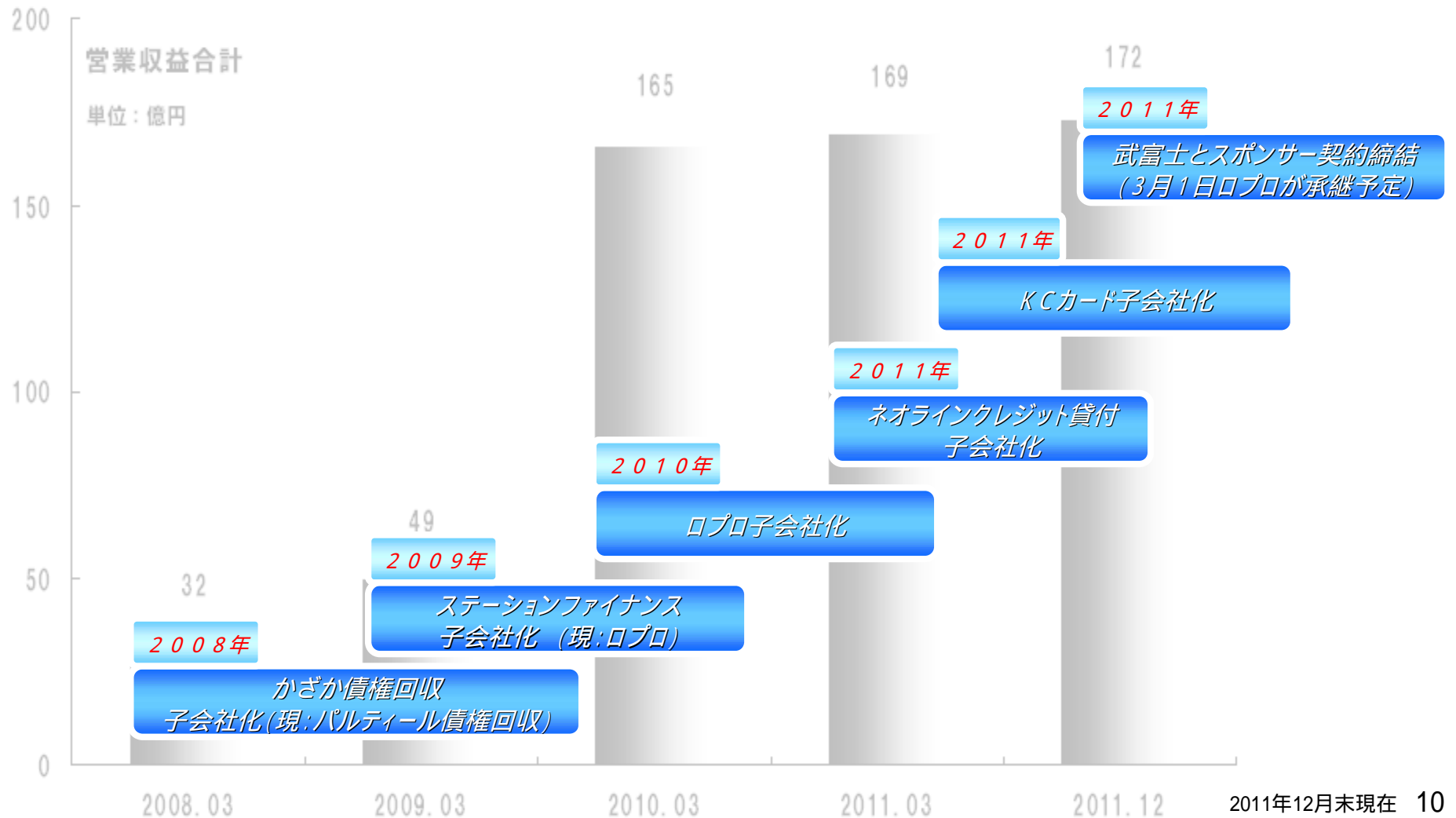
貸金業者は法改正前の4分の1に減少

貸金残高は法改正前から15兆円減少



事業概要 - 当社M & Aの軌跡

- 2008年(平成21年)3月、TOBにより藤澤信義が筆頭株主へ
- 資産規模は2008年3月の121億円から2011年12月で約1200億円へ



当社の強み

マネジメント力

- 環境変化に迅速に対応する意思決定力と判断力
- 様々なノウハウを有する人材による機動力の発揮

強固な 財務基盤

- 高い自己資本比率（39.8%）
- D/Eレシオが1を切る強固な財務基盤を保持

安定した業績

- 貸金業専門上場企業の中で、4期連続黒字有配を実現
- 今期も5期連続黒字有配を達成見込

経営資源と ノウハウの保有

- 1700万人を越える顧客基盤とデータベースの保有
- 無担保・有担保ローンノウハウの保有
- 当社独自の保証ビジネスモデルを保有

メインバンク 不要のCF経営

- 投資先のキャッシュフローを利用するM&A
- 債権回収から生まれるキャッシュフロー

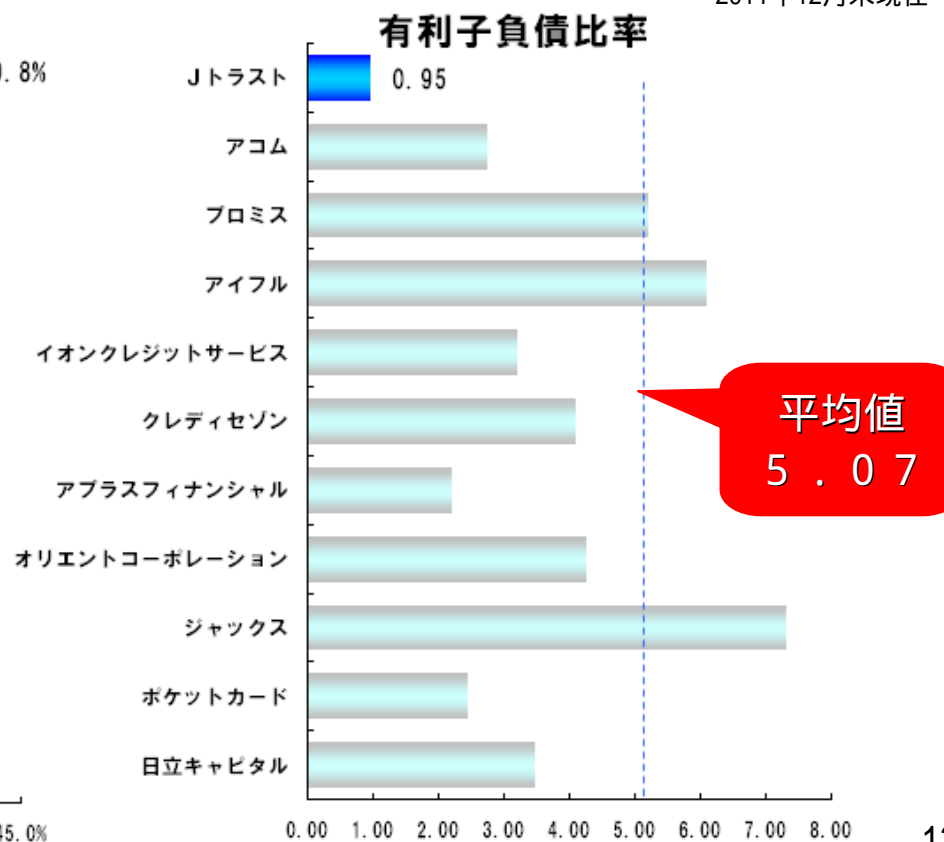
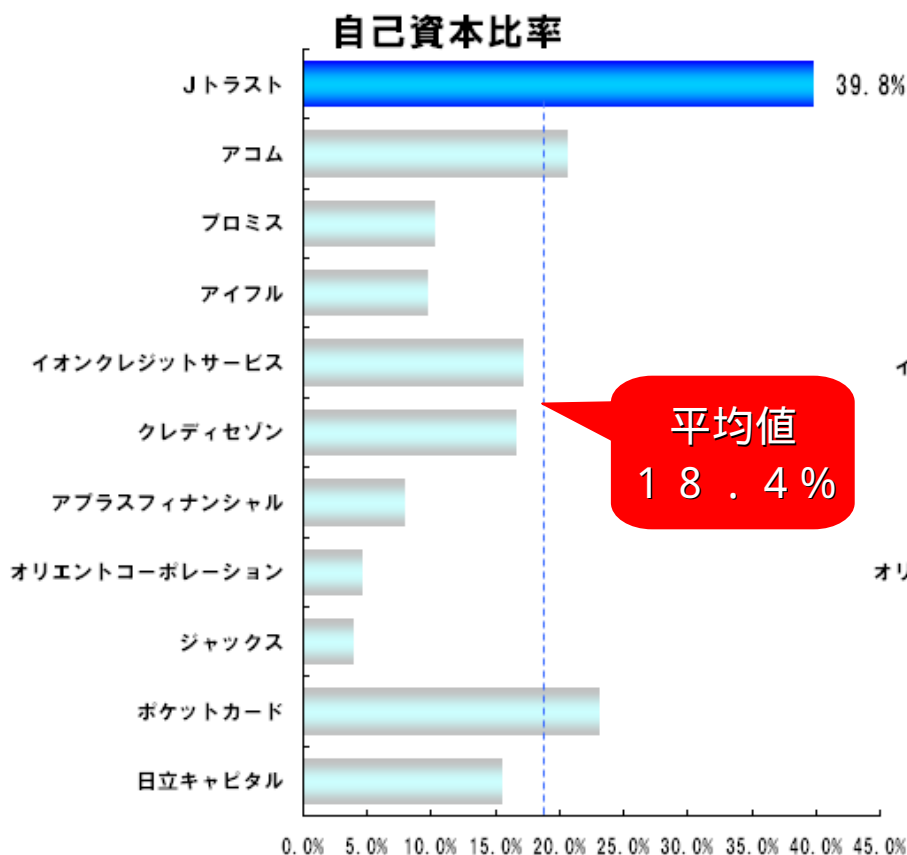
当社の5つの強みー強固な財務基盤

強固な
財務基盤

- 高い自己資本比率 (39.8%)
- D/E レシオが1を切る強固な財務基盤を保持

時価総額 200 億円以上 - その他金融上場会社

2011年12月末現在



出典：S M B C 日興株式会社

安定した業績

- 貸金業専業上場企業の中で、4期連続黒字有配を実現
- 今期も5期連続黒字有配を達成見込

4期連続当期利益黒字かつ
4期連続配当あり（その他金融）

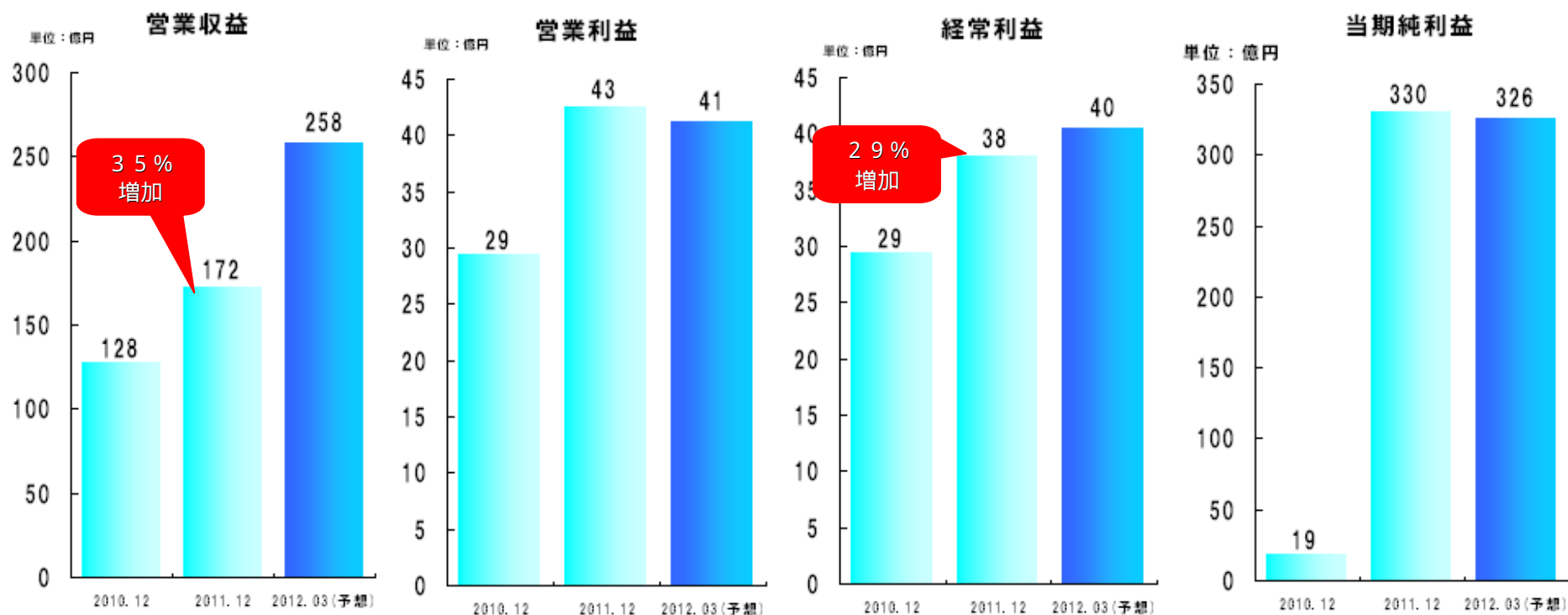
安定業績と継続配当

コード	上場会社名
8424	芙蓉リース
8425	興銀リース
8439	東センリース
8508	Jトラスト
8513	中証金
8566	リコーリース
8570	イオンクレジット
8586	日立キャピタル
8591	オリックス
8593	三菱UFJリース
8596	九州リース
8697	大証
8732	マネパG
8772	アサックス
8787	UCS



2011年3月期
第3四半期業績と通期業績予想

- 営業収益は、クレジット事業・海外事業・債権買取回収事業が貢献
- 為替差損の発生あるも営業利益の増加で経常利益も増加
- 負ののれん発生益計上により当期純利益は大幅アップ



今後の成長に向けた経営戦略

これまでの経営戦略

- 事業基盤の安定化を図る資産規模の拡大を重視
- 資産規模の拡大により事業基盤の整備に一定の評価



当社の経営目標

安定した経営による持続的成長企業の実現

3つの経営戦略の推進

事業基盤の
強化

既存事業の
再構築

新事業への
取り組み

3つの経営戦略を進め、事業の持続的・安定的成長を実現

事業基盤の強化

- 投資効率と既存事業のシナジー性を重視
- 他業種、他業態との顧客基盤を活用するための資本業務提携の推進

既存事業の再構築

- ロプロ、KCカードの顧客基盤を軸に、信用保証事業へシフト
- 保証料というフィービジネスを拡大し、既存事業を活性化
- 目標：3年後1千億円 10年後1兆円の実現

新事業への取り組み

- KCカードを軸に、クレジットカードと信和性のある事業を展開
- 韓国金融情勢の変化を視野に、新たな事業領域への進出も検討

新事業への 取り組み

- KCカードを軸に、クレジットカードと信和性のある事業を展開
- 韓国金融情勢の変化を視野に、新たな事業領域への進出も検討



レンタルDVD店舗



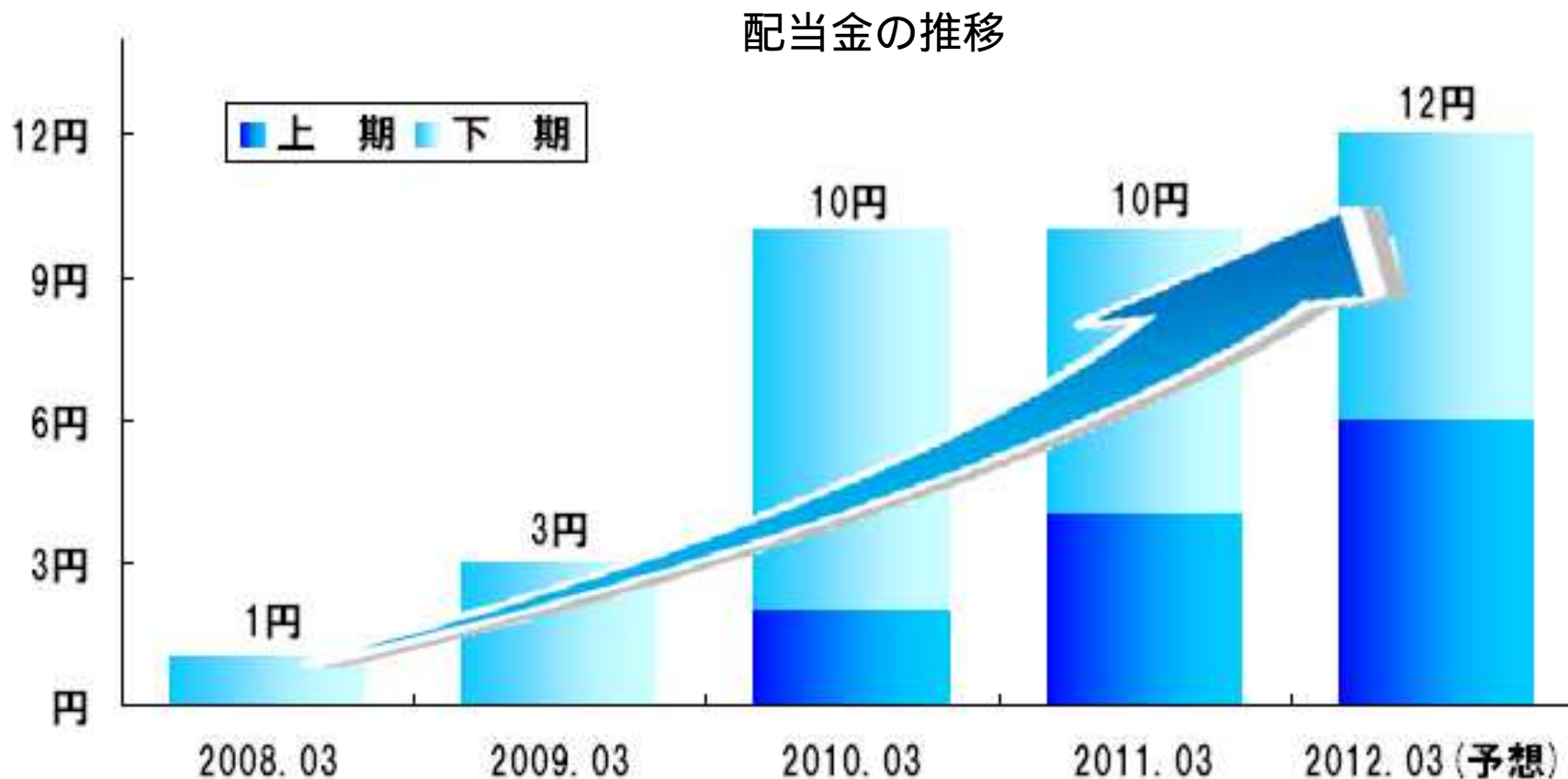
韓国金融事業

B to C 事業とクレジットカードを融合
させた新しいクレジットカードの発行

M & A や、資本業務提携による
新たな事業領域を検討

株主還元について

- ・ 成長のための投資と経営戦略を見極めた上で安定的かつ継続的な配当政策を実施
- ・ 長期保有株主様への優待策も検討



代表取締役社長 藤澤信義演題

- 武富士のスポンサーとなった経緯と目的
および今後の方針
- ネクスト・ジャパン・ホールディングスの
子会社化の目的と今後の方針

免責事項

- ・本資料に記載された意見や予想などは資料作成時点での弊社の判断であり、その情報や正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- ・また、説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- ・投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行われますよう、お願いいたします。